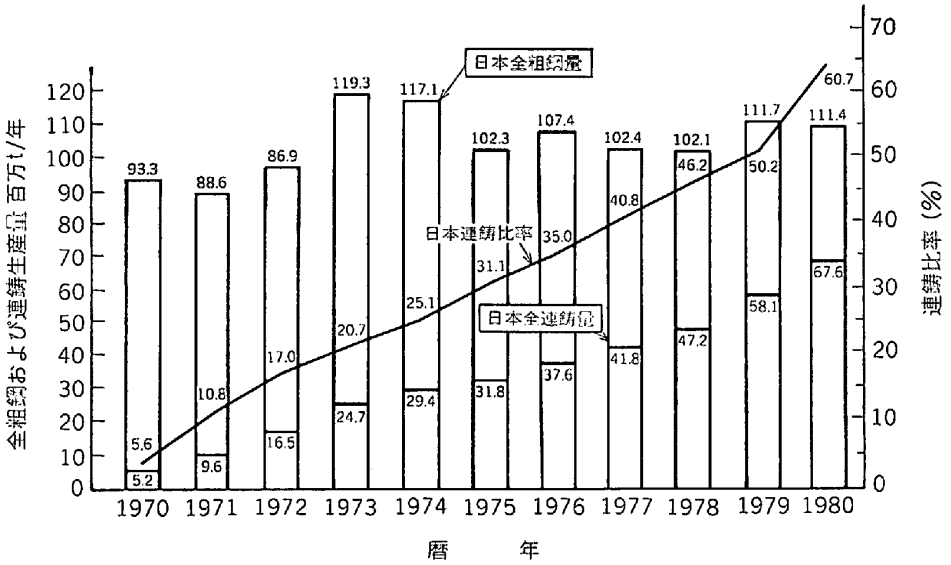
統　計

我が国における粗鋼生産量と連鋳比率*

我が国の昭和55年(1～12月)の粗鋼生産量は1億1千400万tとなり，前年比0.3%の微減で，昭和48年のピーク時に比べ800万t下回つた．いつぽう，この間連鋳比率は40ポイント近く上昇し，昭和55年の連鋳比率は60.7%となつた．この結果，ここ10年間の平均の伸び率では23.4%という高率となつている．図はこの間の事情を示すもので，昨今の連鋳の急激な伸びがうかがわれる．

* 山本全作：第69，70回西山記念講座 P. 6，図4
日刊金属特報（'81 3/3，鉄連まとめより）



わが国における粗鋼生産量および連鋳比率

編集後記

▶7号をお届けいたします．

例年桜の見頃と重なる春季講演大会も，今年は急な寒雨にたたられ，満開を見ずに終り，また，泥水の中に若き力をぶつつけ合つた選抜高校野球もPL学園の逆転優勝で終了いたしました．

編集委員会では，4月3日をもつて田中良平委員長(東京工業大学教授)が2年の任期を終えられ，新委員長に加藤健三大阪大学教授が就任されました．

この2年間田中前委員長は会誌の内容改善に努力され，実行されましたが，新委員長のもと益々の発展が期待されるところです．

編集委員会は，会誌の2本柱として「鉄と鋼」と「Trans. ISIJ」を編集いたしておりますが，「鉄と鋼」は勿論のこと，「Trans. ISIJ」においても，春秋講演大会における英文概要の早期掲載等，種々内容充実に取組んでおります．オリジナルの研究論文等，会員の皆様からの更に一層の投稿を期待いたしますと同時に，当欧文誌を日本の鉄鋼に関する技術ならびに研究の海外における顔として育てていただくことを切にお願いする次第であります．　(S. S.)

▶第6号編集後記中次の通り誤りがございましたので訂正し，深くお詫びいたします．

右段下から三行目

(誤) ……のような指摘を**受けない**ときは，……

(正) ……のような指摘を**受けた**ときは，……